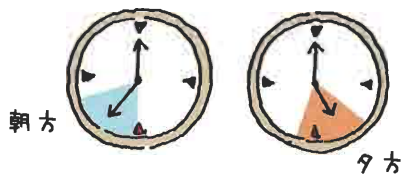


# 苗を植えた後の管理

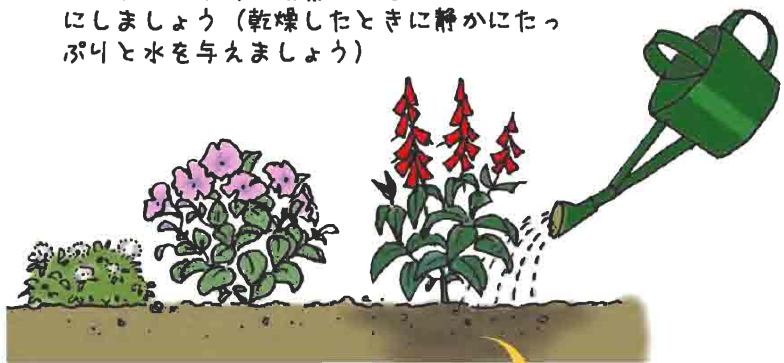
## 1 水やり

屋外に植えた場合、基本的には自然の雨に任せますが、札幌は梅雨がなく、降水量が少ないため、水やりが必要となります。

水やりは植物の根元に朝や夕方の気温の高くない時間帯にしましょう



根が弱くなるので頻りに水を与えないようにしましょう（乾燥したときに静かにたっぷり水を与えましょう）



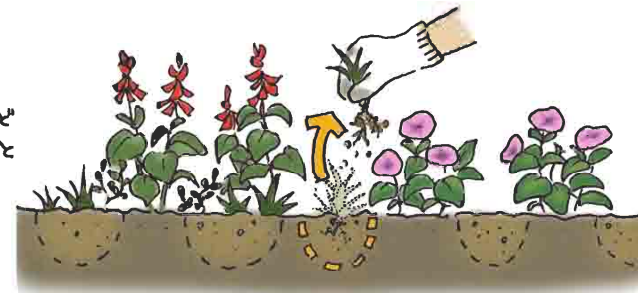
土の乾燥は、直接目で見る、触ってみるとわかりやすいです。花がしおれ気味になっていたら水やりが必要です。

## 2 除草

雑草は土の栄養分を吸い取ってしまうほか、花壇の見栄えを悪くしてしまうので、根ごと取り除きます。

なるべく小さなうちに取りましょう

雨が降った後など土が湿っていると取りやすいです



## 3 追肥（ついひ、おいごえ）

追肥を行うことで、より多くの花を長期間楽しむことができます。肥料切れを起こさないように苗を植えてから1～2ヶ月後程度を目安にしますが、最初に与えている肥料の量にもよるので、植物の状態を見て調整しましょう。

固形の緩効性肥料、液体肥料などを使用します。容器・包装の説明書きを確認しましょう。



# 苗を植えた後の管理

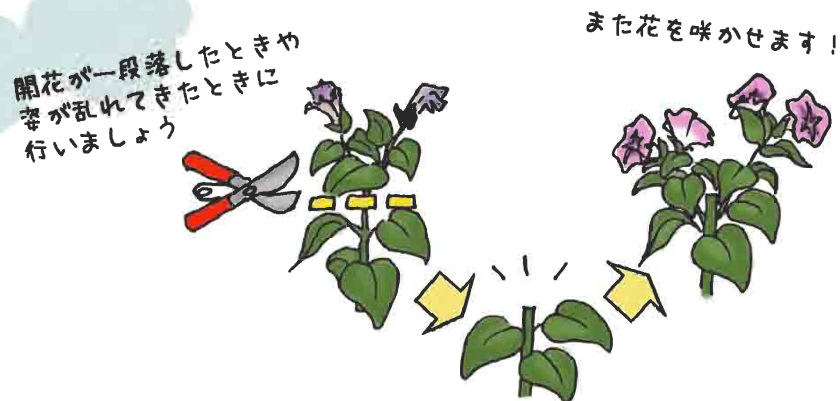
## 4 花がら摘み

咲き終わった花はエネルギーを種づくりに使い始めます。こうなると植物は老化が始まり花が咲かなくなってしまうので、種をつける前に花がらを摘みます。花がらを一度摘んでしまっても一年草は次々と花を咲かせるので、こまめに行いましょう。



## 5 切り戻し

花苗は植えたままにしておくと、いつの間にか姿が乱れたり、間伸びしたりするので、切り戻しをして苗の若返りを行います。



## 6 種をとる

花が咲き終わり、褐色になってきたら花茎から切り取って日陰で乾かし、種をとります。気温が下がると種の熟すスピードが落ちるので、9月中旬から花がら摘みをやめて、10月末までに種をとり終えます。それ以降にできた種は未熟なことが多く、発芽率が低くなります。



## 7 花が咲き終わった後の後始末

花が咲き終わった一年草は根ごと掘り起こし、土を落として処分します。

病害虫などを防ぐために、根ごと取り除きます。花壇の土は全体的に掘り返しておきましょう。



実践編 苗を植えた後の管理

実践編 苗を植えた後の管理



# 花壇のデザイン

ここでは、より花を楽しむ方法として「花壇のデザイン」のポイントを紹介합니다。

## 「花壇のデザイン」のポイント

### 1. 『敷地の状況を考える』

- 対象となる花壇をどこから見るのか、日の当たり方は、風の通り道は、等の条件を考えましょう。
- 歩道の植樹帯などに植える場合は、家庭の庭と違って維持管理の頻度も少なく、土壌条件や排気ガス、街路樹による日陰など条件が悪い場合が多いため、丈夫な性質の花苗を選ばなければ上手に育たないことがあります。

### 2. 『季節感を演出する』

植え込み全体が1年間を通して楽しめるようにしましょう。花の色、開花時期、大きさ、性質、葉の形、質感等を上手に組み合わせる事がポイントです。

#### 『春花壇』

パンジーやチューリップ等の球根類を中心とした寒さに強い種類を選びましょう。

#### 『夏花壇』

最もボリュームな1年草類や多くの宿根草を使って彩りを楽しめる花壇をつくりましょう。

#### 『秋花壇』

斑入りの葉ものや葉牡丹等を選んで花壇をつくと、落ち着いた感じを演出できます。

### 3. 『彩りを考える』

目的（テーマ）に沿って、花壇の彩りを考えましょう。彩りを考える上で重要な事は次の4点です。

- 色の統一感や色の強弱を考える
- ポイントを配置する
- 日なたと日陰の見え方を考える
- 花と一緒に葉色も考える

#### 単色でまとめる



#### 類似色を組み合わせる



#### コントラストを活かす



### 4. 『組み合わせを考える』

「植物の組み合わせ」として、次の4点がポイントとして挙げられます。

#### 1年草と宿根草・球根類の組み合わせ

それぞれの花の特徴を活かして季節感のある華やかな花壇づくりを行います。

#### 立体感のある組み合わせ

生長速度や植込み条件等を考えて組み合わせます。植樹帯の場合は街路樹とのバランスや植栽場所を良く考えましょう。

#### 質感を活かした組み合わせ

形状や質感の違う植物を組み合わせるとメリハリのある花壇をつくりましょう。

#### 相性の良い組み合わせ

花葉の形態や開花時期などが似ている植物を組み合わせます。



# 花壇のデザイン

## デザイン例の紹介

29ページでポイントとして挙げた4つの組み合わせ、

- 1年草と宿根草・球根類の組み合わせ
- 立体感のある組み合わせ
- 質感やアクセントの組み合わせ
- 相性の良い組み合わせ

を反映させた季節ごとの花壇のデザイン例を紹介します。



植物の凡例

● は宿根草・球根類など ● は一年草（季節毎に植えかえ）

### 『春花壇』

春花壇のポイントは淡い色合いの小花の組合せです。宿根草の芽吹きやのやわらかい緑に映える、春らしく優しい印象になります。



A: パンジー B: デージー C: ワシレナグサ D: アリッサム E: パンジー

### 『夏花壇』

夏花壇のポイントは、青系と黄色系の反対色の花色中心の組み合わせです。夏らしく元気でメリハリのある印象になります。



A: マリーゴールド B: ヌプラーギク C: サルビア D: インパチエンス E: サルビア  
ファリナセア コクネシア

### 『秋花壇』

秋花壇のポイントは、暖色系の花色とカラーリーフの組み合わせです。秋らしく落ち着いた印象になります。



A: 葉ボタン B: ジニア C: コリウス&シロタエギク D: ナスタチウム E: 葉ボタン